

令和5年度 学校経営計画に対する評価計画書

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現状 | 評価の観点 | 達成度判断基準 | 判定基準 | 備考 |
|--|--|------------|--|---|--|------------------|--------------------|
| 1 ICTの効果的な活用や様々な学習形態を工夫することで、主体的・対話的で深い学びを実現し、論理的思考力、批判的思考力及び課題発見・解決能力を育成する。 | ① ICT機器によるGoogleclassroom、ロイロノートといったアプリケーションを積極的に活用し、効果的な使い方を研究し、授業改善を実践する。 | 教務課 各教科 | 研修や授業をとおして、個々の生徒の学習状況に応じたICT活用指導力が昨年度よりも向上したと考える教員の割合が83%であった。GIGAスクール構想の推進校として、今年度もより一層ICT活用指導力を高めて、生徒の学びの質を高め、資質・能力を育成していく必要がある。 | 【満足度指標】(生徒) ICT機器によるGoogleclassroom、ロイロノートといったアプリケーションの活用により、学習効果が高まった。 | ICT機器によるGoogleclassroom、ロイロノートといったアプリケーションの活用により、学習効果が高まった(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 7月、12月の学校評価にて評価する。 |
| | ② グループワークやペアワークなどの授業形態を積極的に取り入れ、生徒の対話の場面を作り、教師による講義中心型の授業からの脱却を図る。 | 教務課 各教科 | 日々の授業において、教師は従来の教師による講義中心型の授業を展開しがちである。学習形態を工夫し、生徒の対話の場面を多く設定し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指していく必要がある。 | 【努力指標】(教員) グループワークやペアワークなどの授業形態を取り入れ、生徒の対話の場面を多くし、教師による講義中心型の授業からの脱却を図ることができた。 | 日々の授業において、グループワークやペアワークなどの授業形態を取り入れ、生徒の対話の場面場面を(a多く+b時々)設定している割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 7月、12月の学校評価にて評価する。 |
| | ③ 授業において、生徒が自ら課題を見つける活動を取り入れ、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面を積極的に設けることで、論理的思考力や批判的思考力を育成する。 | 教務課 各教科 | 日々の授業において、論理的に答えさせる質問をし、生徒が教師や生徒同士と意見交換する場面を設定したという教師は昨年度は64%と低かった。生徒の論理的思考力や批判的思考力の育成のためには教師と生徒及び生徒同士の意見交換をする場面を多く設定していく必要がある。 | 【努力指標】(教員) 授業において、生徒が自ら課題を見つける活動を取り入れ、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面を設けることで、論理的思考力や批判的思考力を育成を図ることができた。 | 日々の授業において、生徒が自ら課題を見つける活動を取り入れ、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面を(a多く+b時々)設定している割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 7月、12月の学校評価にて評価する。 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|--|--|--|---|--|--------------------|----------------------------|
| 2 | 個別面談や探究活動を中心とする学習活動を通して生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期から進路調べやキャリア教育を積極的に行うことで、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。 | ① | 進路指導課 学年 教科 | 生徒は、面談や進路学習によって目標をもち志望の実現に向けて学力をつけようと努力している。一方で、進学後や社会に出てからの自分の姿をイメージする力が弱く、進路選択の幅を狭めている。自己の可能性を広げながら進路を考えさせ、能動的な学習に結びつける必要がある。 | 【満足度指標】(生徒) 進路学習や面談などの進路指導を通して、生徒が広い視野で自己の進路を考え、可能性を広げながら進路選択を行っている。 | 面談や進路学習を通して、自らの進路選択に関する知識を十分に得ることができた(aよく+bやや)とする生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 75%以上 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 7月、12月の学校評価にて評価する。 | |
| | | ② | 探究推進室 | 総合的な探究の時間において、1年生では「野々市市PR動画作成」、2年生では「Meirin Glocal Project」、3年生では「志望理由書作成」を中心に据えた取り組みを行ってきた。昨年度から、新しい探究学習の教材を導入しており、それを使って3年間一貫性のある指導体系を構築する。 | 【満足度指標】(生徒) 総合的な探究の時間の活動を通して、生徒が課題を発見し、解決策を模索することで、自らの興味関心や適性を自覚し、将来の進路に関してより明確な目標を持つ。 | 総合的な探究の時間の活動、特に課題解決学習活動を通して、社会問題により関心が高まり、将来の進路目標が以前と比べより明確になった(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 7月、12月の学校評価にて評価する。 | |
| | | ③ | 教務課 各教科 | 日々、自らの行動等を振り返ったり、先を見通したりする生徒は少ない。生徒は手帳等の活用により、日々、自身を振り返り、自身の進路を考える習慣を身につける必要がある。 | 【満足度指標】(生徒) 手帳等を積極的に活用し、進路実現に向けて、自律的に行動する意識が高まる。 | 手帳等の活用により、進路実現に向けて自律的に行動する意識が高まった(aよく+bやや)と考える生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 7月、12月の学校評価にて評価する。 | |
| | | ④ | 進路指導課から各学年、教科に方針を発信することにより、教員全体の相互理解を深め、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。 | 進路指導課 学年 教科 | 生徒は幅広い進路選択に対応するための基礎学力定着に努めているが、学びたい学問、就きたい職業など、生徒自身の動機に基づいた学習意欲がやや弱い傾向にある。内発的な意欲の喚起と、最後まで努力する姿勢を育てる必要がある。 | 【成果指標】(生徒) 3年生:1学期末に生徒が志望した学問分野・領域等と、進学先の学問分野・領域等が一致している。 | 学問分野・領域等が一致している割合が A 80%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 年度末に評価する |
| | | | | | | 【成果指標】(生徒) 3年生:1学期末に生徒が志望した第1希望又は第2希望の進学先(大学・学部・学科、専門学校・専攻等)に進学できた。 | 進学できた割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 年度末に評価する |
| | | | | | | 【成果指標】(生徒) 1・2年生:学力を向上させることができた。 ※総合学力テストの国数英3教科総合の全国偏差値で比較(1年は7月と1月、2年は1年7月と2年1月) | 学力を向上させることができた生徒の割合が A 65%以上 B 55%以上 C 45%以上 D 45%未満 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 1、2年 1月総合学力テストの結果で判断する。 |
| | | | | | | 【成果指標】(生徒) 1・2年生:年度末において、卒業後の学びたい学問分野・領域等(将来やりたい仕事等)が年度当初に比べて明確になった。 | 明確になった(「はっきりした。」+「ある程度はっきりした」)の割合が A 75%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 年度末に生徒アンケートにより評価する |

| | | | | | | | | | |
|---|--|---|---|-----------|--|--|---|---------------------|--------------------|
| 3 | 教職員はICTを効果的に活用し、生徒の教育活動における個別最適化を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。 | ① | ICT教育支援サービスを活用したり、課題を精選するなどし、個別最適な学びの実現を目指す。 | 各学年 | 【1年】 基礎学力の定着から個に応じた学力向上のために、各教科が精選した動画や確認テスト等の学習内容を用意する。特に、週課題や朝学習の自学自習で積極的に利用する。 【2年】 朝学習や課題として国数英に加えて、来年度の共通テストを見据えて「情報」の配信を行う。到達度テストの結果を踏まえ、個々の状況に応じた学習に取り組んでいく。 【3年】 進路実現のために各教科が精選した学習内容を、コースの特性を踏まえて用意する。特に、基礎学力の確認と充実を図る時間として利用する。 | 【満足度指標】(生徒) ICT教育支援サービスを活用したり、朝学習や課題に取り組むことで、自らの学力を高めることができた。 | ICT教育支援サービスを活用したり、朝学習や課題に取り組むことで、自らの学力を高めることができた(aよく+bやや)と考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | Dの場合は、改善策を検討 | 7月、12月の学校評価にて評価する。 |
| | | ② | 採点省力化ソフトを積極的に導入し、採点・分析・評価・返却に要していた労力を削減する。 | 教務課 | 昨年度、採点省力化ソフトを活用した教員が前年度より増加したが、まだまだ十分とは言えない。GIGAスクール構想の推進校として、今年度もより一層教員は採点省力化ソフトを活用し、業務の効率化を図っていく必要がある。 | 【努力指標】(教員) 採点省力化ソフトを活用し、業務の効率化を図ることができた。 | 採点省力化ソフトを活用し業務の効率化を図ることができた(aよく+bやや)と考える教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 7月、12月の学校評価にて評価する。 |
| | | ③ | 業務負担の軽減や時間管理の改善などにより、職員の多忙化改善を進める。 | 副校長 教頭 | 部活動指導や分掌業務などで、時間外勤務が80時間を超える教職員が1ヶ月あたりの平均で4.8人、そのうち100時間を超える教職員が1.8人となり、ともに前年度より増加している。定時退校日の徹底や日ごろからの意識付けを行いたい。 | 【成果指標】(教員) 時間外勤務が80時間を超える教職員が0人になる。 | 時間外勤務が80時間を超える教員の月平均の人数が A 0人 B 2人未満 C 3人未満 D 3人以上 | CまたはDの場合は、改善策を検討する。 | 勤務時間記録により年度末に評価する。 |
| 4 | 部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神やレジリエンスの涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。 | ① | 保護者にPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらう。 | 総務課 | 今年度の重点目標である「早期からのキャリア教育」「チャレンジ精神やレジリエンスの涵養」において、保護者と学校がともに生徒を支える意義が大きい。来校や連絡が相互理解の土台となるので、指標とした。保護者代表であるPTA役員の方と意見交換しながら学校・保護者が信頼しあう土台づくりに努めたい。なお、今年度は、連絡を取り合う回数等の数値をより妥当なものに変更した。 | 【成果指標】(保護者) 多くの保護者が学校の教育方針や行事等に関心をもち、協力・参加した。 | 学校行事やPTA活動で保護者が来校した・または職員とのやりとりを電話などでした回数の平均が2回以上の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 | Dの場合は、改善策を検討 | 7月、12月の学校評価にて評価する。 |
| | | ② | 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。 | 総務課 | 保護者・中学生・地域の方に本校や生徒の様子について知ってもらうため、連絡はもちろん、楽しく見てもらえる記事も含めたい。 | 【成果指標】(教員) 各課、学年等からの最新情報を集約し、速やかにホームページ上に掲載した。 | ホームページ上のアクセス数が月間平均で A 30,000以上 B 25,000以上 C 20,000以上 D 20,000未満 | Dの場合は、改善策を検討 | 年度末に評価する |
| | | ③ | 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上とレジリエンスの獲得を目指す。 | 生徒課 | 様々な状況の中で、中途退部者が10%弱発生している。各顧問と協力し、中途退部者防止策や生徒に対して他の部への再入部の支援体制を行う必要がある。 | 【成果指標】(生徒) 部活動に加入し、活発に活動した。 | 1,2年生の部活動の加入率が A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満 | Dの場合は改善策を検討 | 12月に評価する。 |
| | | ④ | 生徒会行事、地域の行事への主体的な参加を促し、生徒一人ひとりが充実感・達成感を得られるよう推進する。 | 生徒課 | 明倫祭や生徒会行事後のアンケートでは多くの生徒が積極的に参加しているようである。地域の行事や活動にも生徒自身が主体的に参加できる場面をつくり、充実感や達成感が得られるよう工夫したい。 | 【満足度指標】(生徒) 委員会・生徒会活動、地域の行事に主体的に参加し、充実感・達成感を得ることができた。 | 委員会・生徒会活動、地域の行事に主体的に参加し、充実感・達成感を得ることができた生徒(aよく+bやや)の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 7月、12月の学校評価にて評価する。 |

| | | | | | | | | |
|--|---|--|-------------------|--|--|---|------------------|--------------------|
| 5 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する心豊かな人材の育成を図る。 | ① | 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。 | 生徒課 各学年 | 保護者や全職員による登校指導や、有志の生徒による挨拶運動により、挨拶をする環境が生まれ、生徒は自然と挨拶を行うようになっている。しかし、しっかり声を出せる生徒が少ない。 | 【努力指標】(生徒) 登校時や校内で出会った人に対して、積極的にしっかり声を出して挨拶をする生徒が増える。 | 朝の挨拶運動などで、生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかり声を出し挨拶できた(aよく+bやや)生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 7月、12月の学校評価にて評価する。 |
| | ② | 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことで規範意識を育成する。 | 生徒課 各学年 | 生徒の規範意識は高いものの、僅かではあるが、頭髪の加工や制服の不適切な着用で規律を守れていない生徒がいる。 | 【努力指標】(生徒) 規律を遵守し、自ら身なりを整える生徒が増える。 | 制服を意識的に正しく整えている(aよく+bやや)生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 | B以下の場合、改善策を検討 | 7月、12月の学校評価にて評価する。 |
| | ③ | 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。 | 生徒課 各学年 | 規範意識自体は高いが、イヤホン着用や並列走行などの交通違反に対する意識が薄い。細かな指導と啓発活動が急務である。 | 【成果指標】(生徒) 自転車運転のルールとマナーの必要性を認識し、交通ルールを遵守する生徒が増えた。 | 交通ルール(自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない)を遵守している(aよく+bやや)生徒の割合が A 98%以上 B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 7月、12月の学校評価にて評価する。 |
| | ④ | 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。 | 生徒課 各学年 | 全校で取り組んでいる校外清掃や部活動単位で行う校外活動等、今後もこうした機会を通じ地域貢献意識を高める。 | 【成果指標】(生徒) ボランティア活動を通して地域貢献できていることを感じとり、積極的に活動に取り組んだ。 | ボランティア活動に、積極的に参加した生徒(aよく+bやや)の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 7月、12月の学校評価にて評価する。 |
| | ⑤ | 生徒の良好な人間関係作りを支援する。 | 相談室 各学年 | 生徒は全体的に落ち着いた生活をしているが、人と関わることを苦手とする生徒が増えており、良好な人間関係を築くための手立てを必要としている。 | 【成果指標】(生徒) 生徒がクラスや部活動に居場所を見出し、学校生活が楽しいと感じる。 | 学校生活が楽しいと感じる生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 7月、12月の学校評価にて評価する。 |
| | ⑥ | 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。 | 相談室 生徒課 各学年 | いじめ及び心的支援を必要とする生徒への対応について職員の情報共有や連携の体制は取れている。一方、長期欠席の生徒の対応については、一層の情報共有と連携を図り丁寧に取り組む必要がある。 | 【努力指標】(教員) 各種調査や情報交換などで、支援を必要としている生徒をしっかり把握し適切な対処をしている。 | いじめや人間関係などの生徒の変化に対して、素早く察知し、対応することができたのアンケートをとり、あてはまる割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 7月、12月の学校評価にて評価する。 |
| | ⑦ | 定例清掃の活動を通して、環境美化意識を高める。 | 保健環境課 | 放課後に全校一斉清掃として、全生徒・全教員が校舎内の清掃に取り組んでいる。活動を通して、生徒と教員がコミュニケーションをとる時間にもなっている。 | 【成果指標】(生徒) 愛校心と環境美化意識を持ち清掃に取り組んでいる。 | 環境美化を意識し真面目に清掃に取り組んでいる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | Dの場合は、改善策を検討 | 年度末に評価する。 |
| | ⑧ | 図書委員による図書便りや本の紹介の作成・発行などの図書案内や各学年団と連携した一斉読書といった読書指導によって読書に親しむ習慣を身に付けさせる。 | 図書課 | 紙媒体の本の利用が減ってはいるが、スマホや電子書籍などメディアの多様化が進んでいる。おすすめの図書の紹介や展示により、電子媒体も含め、読書を推進させる必要がある。 | 【成果指標】(生徒) 1学期は新入生ガイダンス、総体総文時一斉読書、2学期は新入大会時の一斉読書で1.2年生の読書が増えた。3年生は受験用に読書した。 | 生徒一人あたりの年平均貸出冊数が A 5冊以上 B 3冊以上 C 2冊以上 D 2冊未満 | CまたはDの場合は、改善策を検討 | 年度末に評価する。 |